

古写真  
ひと  
万華鏡  
6

髪結い

「環境科学部 若木 太一 教授」

長崎大学附属図書館蔵  
番号3904  
写真サイズ縦25.3cm x 横19.8cm  
モノクロに着色  
<http://hikoma.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/>

幕末・明治を撮った  
スタイルフリード

この写真は横浜のスタイルフリード (STILLERED)制作の特大アルバム『JAPAN TYPUS ET COSTUMES・1867』の中の一枚である。すなわち明治維新の前年、慶応3年(1867)に制作されたアルバムといつことになる。かれは明治天皇を撮影したことで有名だが、オーストリアの貴族の出で、すでに1865年から1869年にかけてテクスター商会長崎店の社員として働いていたらしい。日本に来てF・ヘアトに写真技術を学んでいる。いたんメキシコにおもむき義勇軍に参加しているが、1867年冬には再び日本へ来て活動している齋藤多喜夫『幕末明治横浜写真館物語』(2004)。

月代を剃る風習のめずらしさ

写真は江戸時代から明治初期までであった職業「髪結い」を写したものの、日本独特の髪型を整える職業として西洋人には珍しかったのである。江戸時代以来の職業として「月代」にも見られた。

「月代」は何のために剃ったのか。月

代を剃ってちよんまげを結び、袴に袴を着け、二本差しの刀、といえは時代劇でおなじみの侍の姿である。

成人した侍が出仕のときの身だしなみ、正装として日本人には違和感はない。しかし、よくよく見れば異様な髪型であろう。鬘を結うのはともかくとして、月代を剃っているのは中国の清朝時代の弁髪などと同じようなものである。

『太平記』には月代を剃る風習が記されている。武士が兜を被るとき蒸れないように剃ったという説がある。また、中世の武士たちより以前に、古代の公卿たちが冠や烏帽子を着けるさいに前頭部の髪を抜いたり

月形に剃ったといつ説もある。『嬉遊笑覧』。徳川時代になってその月代を剃る風習が町人たちのあいだに及んだといつ説もあるが正確なことはわからない。



文明開化のシンボル  
ジャンギリ頭

明治4年(1871)8月9日、政府は「断髪令(散髪脱刀令)」を発した。すでに刀を捨て、西洋式の散切り頭の兵士や文明開化の風潮にならった散切り頭で新時代を謳歌する若者たちもあつた。しかし一方政令にかかわらず鬘を切らず旧時代のま

まの姿で生きる者も少なくなつた。

同年5月に出た「新聞雑誌」第2号に「近日里俗ノ歌」と書きだして、次のような流行歌を載せている。この新聞は参議木戸孝允(1833-1877)が発行を企画したもの。

半髪頭ヲタイテミレバ  
因循姑息ノ音ガスル

総髪頭ヲタイテミレバ  
王政復古ノ音ガスル

ジャンギリ頭ヲタイテミレバ  
文明開化ノ音ガスル

この「半髪頭」といのが月代を剃ったちよんまげ姿のことである。「小髻アルモノ、小髻ソルモノ」と説明している。古い徳川時代の風俗で、それを捨てきらずにいる古風な、時代遅れの者を揶揄した歌。

「総髪頭」は長髪をい、「マケヲ結フモノ、マケヲ結ハス後下ゲタルモノ」をい。これも復古調のスタイルで、御維新の時代から抜けきつていない輩を評したもの。

「ジャンギリ頭」とは文明開化のシンボルともいふべき「散切り頭」のこと。「イガクリニ三髪短カキモノ、ナテツケニ三髪長キモノ」と説明する。

この明治4年は近代化をめざす政府の画期的な政令が「つぎと出た年である。4月4日に戸籍法を定め、5月10日には新貨条例で円、銭、厘の単位を定め、7月14日に廃藩置県令、12月27日には新紙幣を発行した。